

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成30年11月29日

施設名	牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 環境共生課
-----	-------	------	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200番地6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p>〈植物園面積〉 約18.2ha(うち6haを利用)、駐車場(普通車など195台、バスなど8台) 〈主要施設〉 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど 〈開園時間〉 午前9時～午後5時 〈休園日〉 12月27日～1月1日 〈主な料金〉 入園料／一般720円(高校生以下無料)、団体620円(20名以上)、年間入園券2,880円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)／映像ホール1,440～1,850円、アトリエ実習室510～620円など 撮影料／業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,840円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,700円</p>		
職員体制	常勤職員: 23人 契約職員: 23人 合計: 46人		

「職員数は、平成30年4月1日現在」

2 収支の状況

単位:千円

		28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
収入	県支出金	370,674	356,323	383,947
	使用料・手数料	52,289	50,901	81,536
	その他	18,063	7,348	5,447
	収入計 (a)	441,026	414,572	470,930
支出	事業費	48,802	42,505	49,042
	管理運営費	197,779	183,600	213,428
	人件費	191,956	183,971	208,460
	その他	2,489	4,496	0
	支出計 (b)	441,026	414,572	470,930

3 利用状況

	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	146,354	135,089	180,000
②利用者意見等の反映	<p>○利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや教室開催時にはアンケートを実施のうえ、要望を把握し、次回以降の企画に活かしている。 ・苦情については、適宜迅速かつ丁寧に対応し、経緯を含め職員間で対応に関する共通認識を持つようにしている。 		
③その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントコーンと山間地の人々の暮らしについて展示した「きび」と高知のくらしー昔ながらのトウモロコシー展や、長年にわたり行ってきた、ミャンマーの調査研究活動成果を中心に生物多様性など多面的に展開した「ミャンマー～碧き回廊に行く」という2本の企画展示を開催した。 ・研究型植物園として、研究成果の発信につとめ、査読付きの原著論文として英文論文9報、和文論文3報を発表し、昨年度に比べ、英文5報、和文1報の計6報増加した。 ・全体の入園者数は前年度8%減の13万5089人で、目標の14万5千人に届かず、利用料金収入も前年比約3%減の50,091千円となった。 		

4 平成29年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカー、車イスに加えてシルバーカーの貸出等、来園者にとって利用しやすい管理運営に努めている。 ・外部で行われる接遇セミナー等に参加するほか、財団内部でも情報共有や勉強会を実施している。 ・園内のショップやレストランと定期的に意見、情報交換を実施しており、グッズやメニューの開発に協力し、来園者へのサービス向上に努めている。
③事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園地、植物管理においては、牧野博士ゆかりの植物や高知県の野生植物など52種約250株を新たに植栽し、展示植物の充実を図るとともに、植物ラベルや解説カラーパネルを積極的に新規設置あるいは更新し、来園者へのサービス向上に努めた。 ・基礎研究分野では、研究活動の成果を12の原著論文として公表するとともに、学会やシンポジウムにおいても発表した。標本数は1年間で12,473点増加し、総数295,422点と充実を図っている。 ・薬用植物研究では、引き続きホソバオケラ、ジャクヤクの栽培試験を行うなど、中山間地域における産業振興に向けた研究調査を実施している。また、民間企業や大学等と、薬用植物の栽培や牧野博士ゆかりの植物からの機能性商品の開発を目指す共同研究を実施している。
④収支の状況	年間入園者数は前年度から11,265人減少したため、利用料金収入も前年度から約1,388千円減の50,901千円となった。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社を介した県外観光客の誘客に引き続き取り組んでほしい。 ・労務管理(給与水準の改善等)を徹底して離職率の低下につなげてほしい。 ・公立植物園の使命を理解し実践することで、他の植物園の模範となる運営を行っている。 ・園内の病虫害防除、施肥、剪定、芝刈、除草については、利用料金収入が減少すると、経費調整で作業の品質が低下する懸念があるため、事業計画書の中で水準を明記すること。
	A

【評価の目安】 A:仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B:おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C:仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D:管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの